

公庫 MRO に 2000 万 出資

那覇空港、民間機整備に

沖縄振興開発金融公庫（川上好久理事長は2日、那覇空港の民間航空機整備施設で整備事業を展開する MRO Japan に2千万円を出資したと発表した。9月28日付。同社の資本金は10億円となった。整備や機体塗装に必要な設備投資に充てる。格納庫での整備が中心だが、海外の航空会社から運航ごとに行うライン整備の打診もあり、対応するという。MRO Japan は10月以降、伊丹空港から那覇空港への移転を進めており、2019年1月の操業を予定している。単年度売り上げ30億円を見込む。



県経済発展への寄与が期待される MRO Japan への出資を喜ぶ（左から）沖縄振興開発金融公庫の島田和佳氏、慶田康成氏、MRO Japan の佐々木泰史氏、原武史氏。2日午後、那覇市の沖縄振興開発金融公庫

出資の意義を語った。「出るノウハウも得られる」と

県経 済 発 展 へ の 寄 与 が 期 待 さ れ る MRO Japan へ の 出 資 を 喜 ぶ（左から）沖 縄 振 興 開 発 金 融 公 庫 の 島 田 和 佳 氏、 慶 田 康 成 氏、MRO Japan の 佐 々 木 泰 史 氏、原 武 史 氏。2 日 午 後、那 覇 市 の 沖 縄 振 興 開 発 金 融 公 庫

7月現在、従業員は270人でANAの出向者が多いが、沖縄出身者の採用を増やしている。25年までに累計2000人を採用し従業員は400人規模となる。

MRO大幅増資 公庫などが支援

那覇の航空機整備業

航空機整備事業のMRO

Japan（那覇市、荒川清朗社長）は2日、沖縄振興開発金融公庫など8社から9月28日付で9億9千万円の出資を受けたと発表した。資本金は1千万円から5億5千万円



となり、4億5千万円は資本準備金とした。機体の点検用機材や塗装用機材の購入費に充て、那覇空港内の作業拠点で使う。出資比率は、ANAホールディングス45%、シャムコ25%、三菱重工20%で、

記者会見する（左から）沖縄振興開発金融公庫融資第1部産業開発出資班の島田和佳調査役、慶田康成課長、MRO Japan事業推進部の佐々木泰史部長、同部総務課の原武史マネージャー（2日、那覇市の同公庫）……残り10%は公庫、沖縄電力、琉球銀行、沖縄銀行、沖縄海邦銀行が負担した。

同社は2015年の設立以来、伊丹空港内の格納庫で航空機を整備してきたが、来年1月からは那覇空港内の格納庫へ移転する。那覇の格納庫の規模は伊丹で使用している格納庫の2棟分に相当するため、作業を効率化できるといふ。さらに、那覇には多くの航空会社が就航しているため、これまで受注しているA

NAグループ関連に加え、多くのLCC（格安航空会社）との取引が見込めるといふ。機体の塗装ができる国内拠点は同社のみ。8～9年に1回必要になる全面塗り直しだけでなく、イベントやキャンペーン用の塗装需要も増えているといふ。

同社の17年度の売り上げは約20億円で、25年度には30億円規模へ伸ばす計画。従業員はANAからの出向を段階的に減らし、同年度までに正社員として200人を採用する。

公庫は出資により、地元での高度人材の育成や、県が掲げる航空関連産業クラスター事業の支援につながるとみている。